発掘だより No.41

平成20年3月8日(土)発行
豊川市教育委員会 生涯学習課
〒441-1292 豊川市一宮町第1番地
TEL(0533)93-0153

六光寺(ろっこうじ)遺跡 平成19年度発掘調査の概要

竪穴住居(SH915)のカマド付近で出土した甕(かめ)と甑(こしき)

１はじめに

豊川市教育委員会では豊川西部土地区画整理事業に伴い、工事の対象となる地域に存在する遺跡の発掘調査を平成 10 年度から継続して実施しています。六光寺遺跡は区画整理事業前に行われた試掘調査(平成８年度)でその存在が確認された遺跡で、今回が初めての本調査となります。試掘調査では７世紀代の竪穴住居が２棟確認されており、当該時期の集落遺跡であることが想定されていました。今回の発掘調査では７世紀代を中心とし、竪穴住居 15 棟、掘立柱建物２棟などの遺構が確認されています。

調査期間：平成 19 年 10 月１日から平成 20 年３月末まで
調査理由：豊川西部土地区画整理事業に伴う事前調査
調査主体：豊川市教育委員会(担当：生涯学習課文化財係)
調査面積：２，１５０㎡

２確認された遺構と遺物

旧石器時代(約２万年～１万２千年前)

遺構は確認されていませんが、石器を作る際に生じる剥片(石くず)が出土しており、当該期に本遺跡において人々が生活をしていたことが推定されます。

古墳時代後期(７世紀代)

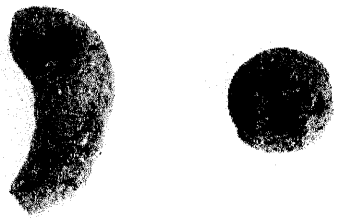
今回の調査で確認された遺構・遺物の主体となる時期で、遺構としては竪穴住居や土坑などがあります。

ＳＨ915(ＳＨとは竪穴住居の略記号です)は当時住居が使用されていた時に火災にあって焼失したと推定される竪穴住居跡で、床面上に住居の構築材と考えられる炭化した木片や焼土が検出され、カマドの両脇からは土師器(はじき)の甕(かめ)や甑(こしき)、須恵器(すえき)の坏(つき)などがほぼ完形で出土しました(表紙写真参照)。調査区南西端付近で検出されたＳＨ905～907 は同じ場所に2~3回建て替えられた住居跡です。建て替え回数の多さや、今回の調査では他に同一場所に建て替えられた竪穴住居跡は確認されていませんので、特殊な住居跡と言えるかもしれません。ＳＨ906 では祭祀に用いられたと推定される土製の勾玉(まがたま)・丸玉が出土しています。

調査区東側では径が１～２ｍ程の楕円形の土坑が近接して検出されＳＫ955・957・959・960(ＳＫとは土坑の略記号です)では土師器(はじき)の甕(かめ)や須恵器(すえき)の坏(つき)・甕(かめ)などの破片が出土しました。

奈良時代(８世紀)

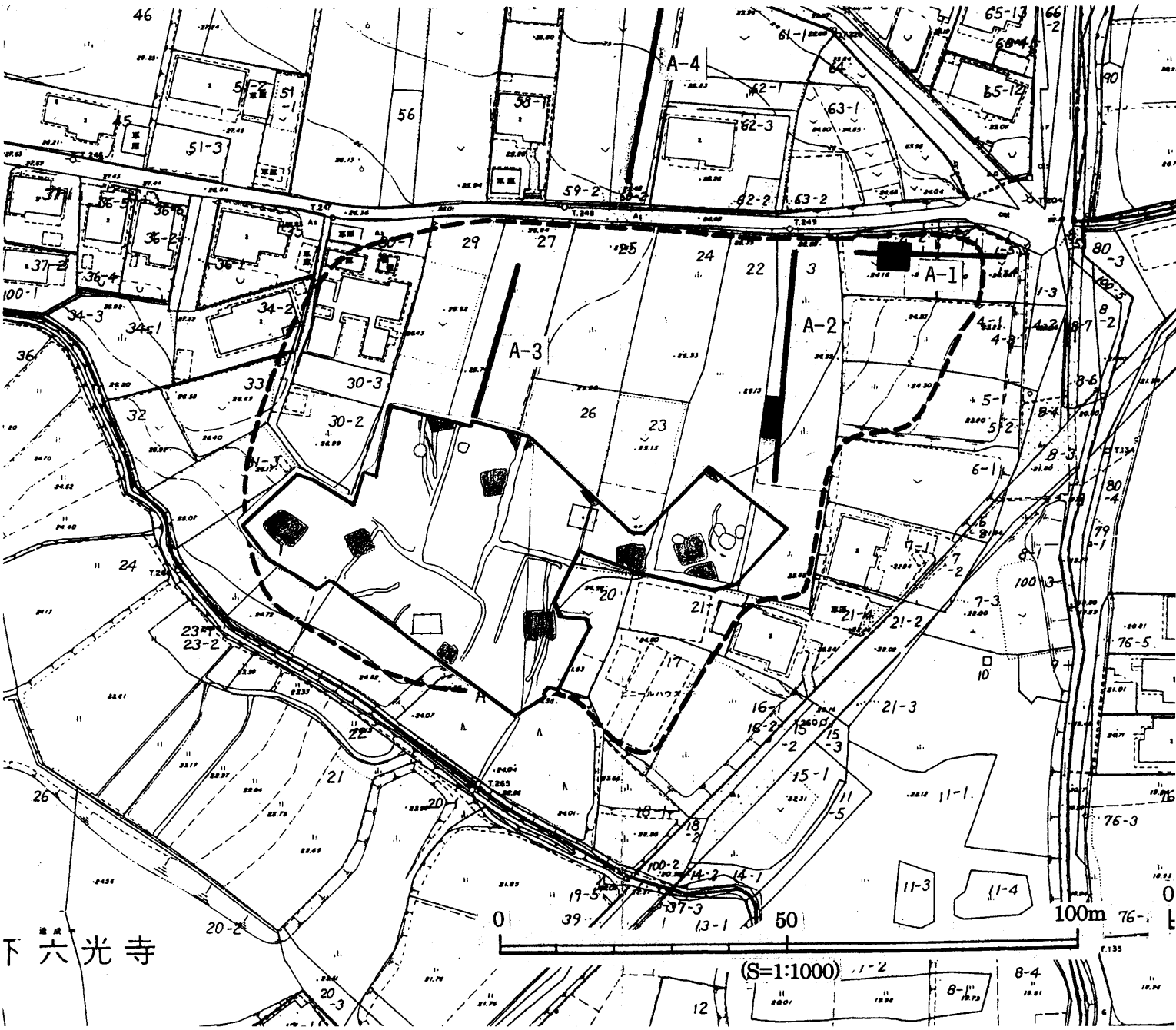
竪穴住居跡が２軒確認されました。



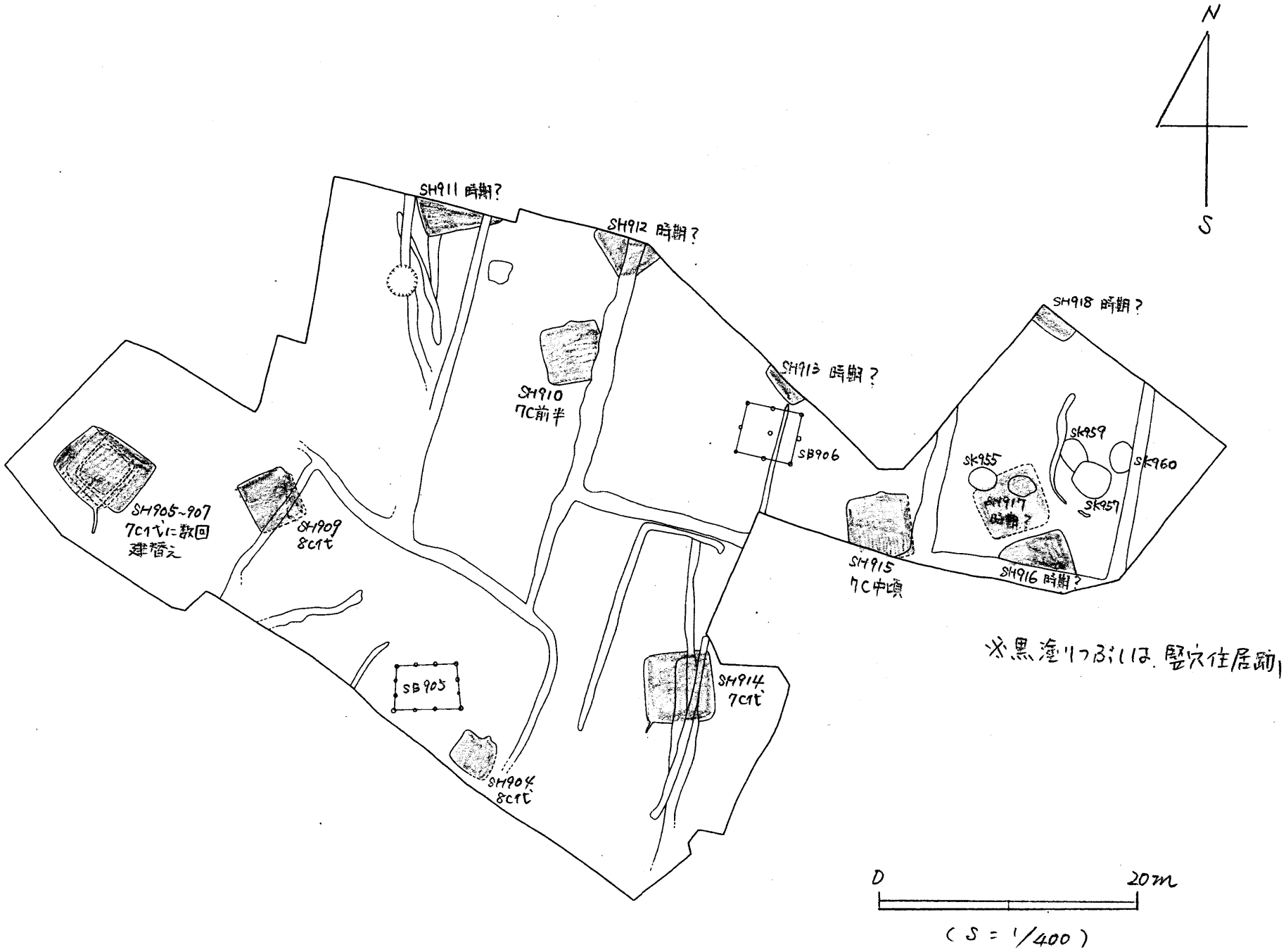
土製勾玉・丸玉(ＳＨ906 出土)

３おわりに

今回の調査は六光寺遺跡での初めての本調査となりましたが、遺跡の様相を知る上で貴重な手掛かりを得ることができました。それを要約すれば、①遺跡の主体となる時期は７世紀代で集落遺跡であること、②８世紀代にも引き続き竪穴住居が存在すること、③７～８世紀以外の時期の遺構・遺物がほとんどみられないことがあげられます。ただし今回の調査区は六光寺遺跡の全てを調査したわけではなく、未調査である遺跡の北側地域にまだ多くの遺構が存在すると推定されることから、今後の調査の進展によっては今回の調査における遺跡像が変わることも考えられます。



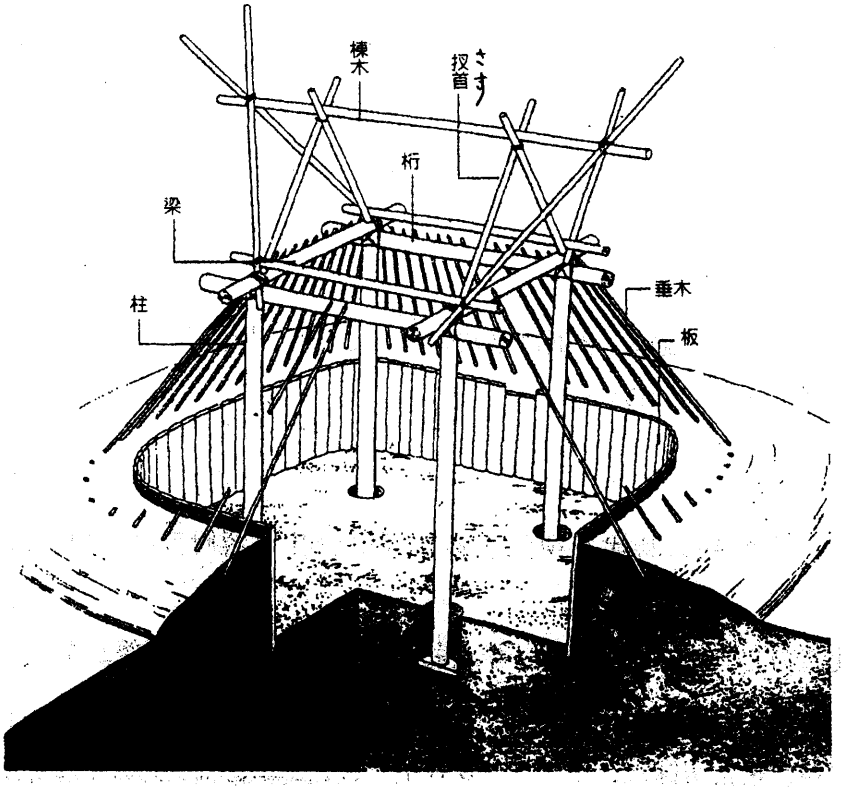
六光寺遺跡全体と今回の調査区



※黒塗りつぶしは竪穴住居跡

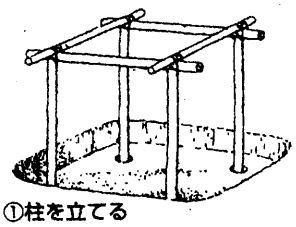
六光寺遺跡主要遺構概略図

★ 竪穴住居（たてあなじゅうきょ） …地表面を竪（たて）に掘りくぼめ、底面を平坦に踏み固めて床面を作り、炉、竈、柱穴、周溝を設け、その上に屋根を覆った住居。日本では縄文時代から平安時代まで続いた住居の一形式。平面形には円形、長方形、方形、隅丸方形、楕円形などがあり、時代と地域によって、変化が見られる。

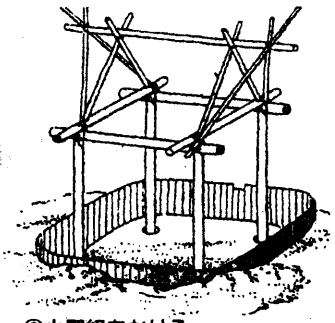


③骨組みの完成
竪穴の周囲に盛り土をし、地固めをしっかりとする。盛り土は風を遮り雨水の浸水を防ぐとともに、保温性と防湿性にすぐれ、ここに差し込まれた屋根の枠組みとなる垂木を支える。垂木は盛り土にほぼ等間隔に差し込み、カヤやアシなどを葺（ふ）くための桟（横木）を結びつけた。これで住居の骨組みがほぼ完成する。住居に使用される木材は、一般に加工しやすくて軽い木材を使用するが、地域的な植生分布の特色が強く影響しており、北九州では堅く加工しにくい常緑広葉樹が多く分布するため、これらの木材を使った例もある。

●竪穴式住居の建て方
（作画／藤田正純）

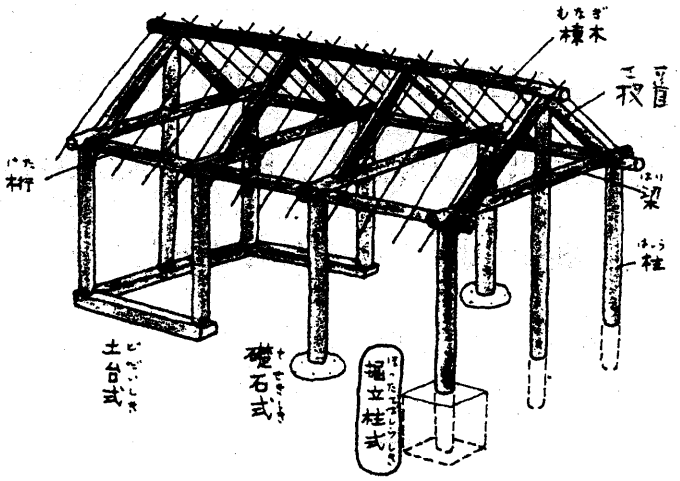


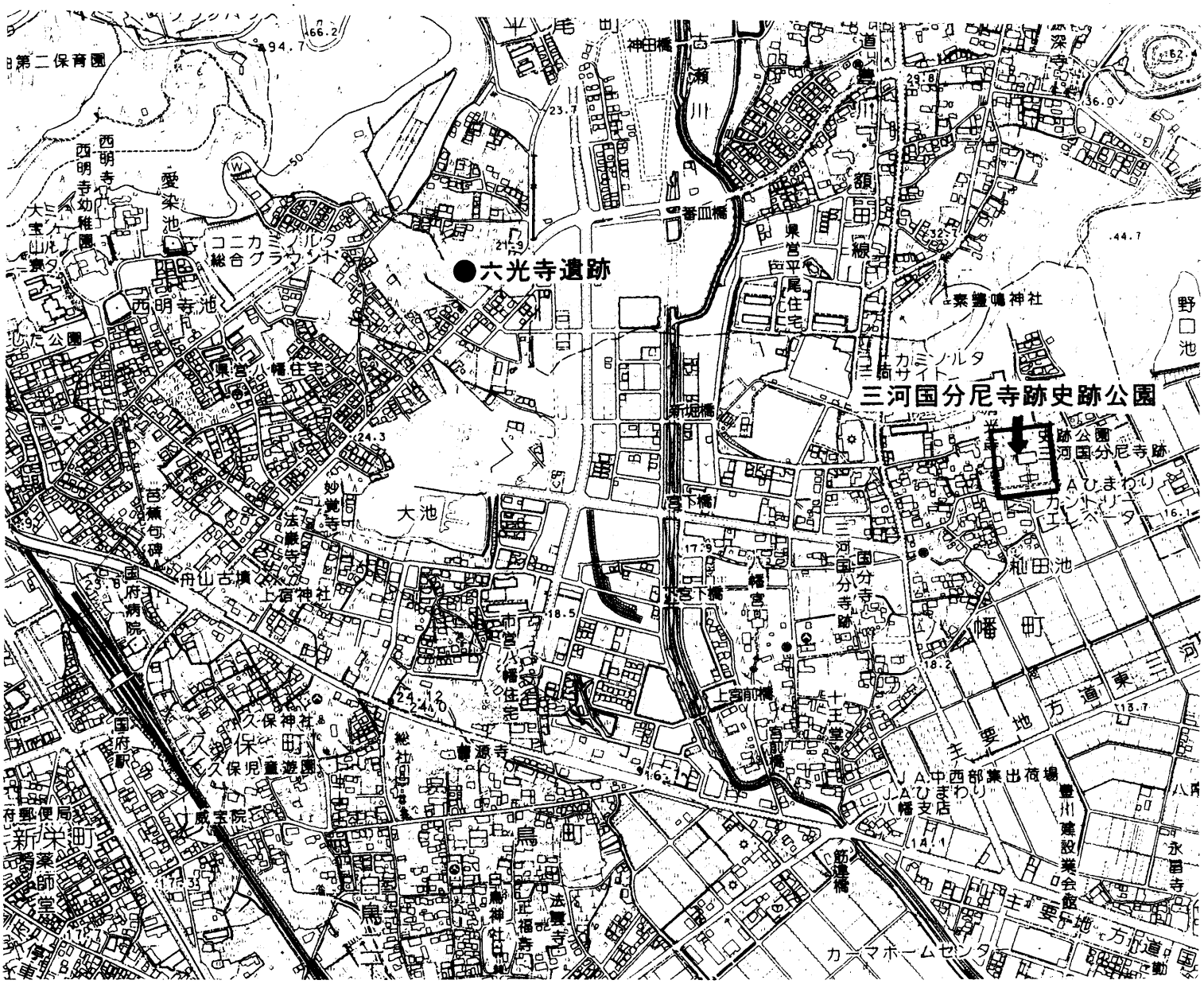
①柱を立てる
まず地面を円形・楕円形または方形に50cm前後の深さに掘り下げ、床をつくる。中に柱用の穴を掘り、柱（東日本においては4本柱が主流）を立てる。柱の上には桁（けた）・梁（はり）を渡し安定させる。



②小屋組をかける
梁の上に扠首（さす）を交差させ、そこに棟木を載せて小屋組部分の枠組みをつくる。さらに掘り下げた竪穴の側面には板が当てられ、土が崩れないよう補強している。

★ 掘立柱建物（ほったてばしらたてもの） …地中に穴を掘って柱を埋め込んで立てた掘立柱式の建物。



ご案内

六光寺遺跡から約１㎞程のところに三河国分尼寺跡史跡公園があります。国分尼寺とは、聖武天皇の発願により奈良時代の８世紀中頃から後半の時期に国分寺とともに全国に建立された古代寺院です。この公園には当時の建物（中門・回廊）の復元建物や三河国分寺・国分尼寺・三河国府などの出土品を展示する三河天平の里資料館があります。ボランティアガイドによる説明もありますので、ぜひお立ち寄り下さい。なお資料館には今年度実施した三河国分寺跡発掘調査で出土した遺物も展示しています。